

ほんの森

図書館☎84-3311



図書館休館日
3月6日(火)
毎週月曜日

映画会

『チャーリーとチョコレート工場』

日 時 3月18日(日)
午前10時・午後2時
上映時間 1時間55分
場所 2階ハイビジョンホール
定員 各回120名
員場 整理券(無料)を3月3日(土)から配布します。
ご希望の方は図書館カウンターまでお越しください。



金曜映画会

『おじいちゃん元気になってね』

日 時 3月23日(金) 午後2時から
上映時間 47分
場所 2階ハイビジョンホール
定員 先着100名 ※整理券は不要です

返し忘れている本はありませんか?

図書館から借りて返し忘れている本がありま
たら、お早めにお返しください。
また、自宅で不要になった本は寄贈も受け付
けていますので、図書館へご相談ください。

文芸

俳句

紅白の薔薇ふみし梅の園

浅野 茂子

泣きづかれして道ならぬ猫の恋

玉虫 栗扇

風に身を委ねつ聴くや春の音

池田 逸子

声からし泥まみれなる猫の恋

戸村 静華

芸人も力士も豆打つ成田山

伊藤 敬子

しばれるや言葉みじかき津軽人

布施 和代

真夜中や静寂劈く猫の恋

今関満喜子

音だけの朝の花火や一の午

丸山 照美

暖冬や遅咲き早咲き狂い咲き

魚地 照子

ふところの子猫ぬくもり捨てにゆく

山口 一秋

三日月のむら雲の影春早し

福田 幸子

木枯や何處を巡りて街に來し

江森 悅子

しぶれるや言葉みじかき津軽人

渡部 和秋

成田山へ初詣すと人力車に

平山 芳子

寺年酒話し淨土に行き來する

川島 孝夫

乗る人ありて視線あつむる

吉岡 信子

声立てて嬰児笑えぬ春立つ日

大谷 武彦

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

立春や木下濡らさぬほどの雨

川島 通則

循環バス行く故里の道

押尾 輝子

暖冬や早春来る昨日今日

桑名 大行

成田山へ初詣すと人力車に

平山 芳子

友よりの句繙く小正月

向後 寛

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

立春や木下濡らさぬほどの雨

川島 通則

循環バス行く故里の道

押尾 輝子

暖冬や早春来る昨日今日

桑名 大行

成田山へ初詣すと人力車に

平山 芳子

鬼やらい追いつ追われつ年子の児

越川せつ子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

戦中派目刺し二匹の松納め

佐瀬 輝夫

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

広報に読みしと友の賀状は

西山満里子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

町村の合併によりわが歌を

斎藤つね子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

短歌

冬枯れの木の間に赫赫落暉燃ゆ

安田 和子

成田山へ初詣すと人力車に

平山 芳子

生あるものの命ささえて

安田 和子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

鎮魂の辞忠魂碑前で朗誦し

安田 和子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

が誠捧げたるなり

鈴木 益郎

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

作りつつ磨く勾玉艶のでて

池田 春江

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

歎声あがる彼方こちらに

長谷川 正子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

枯芝を金に染めつつ大寒の

上総 晴子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

人間のエゴと詫びつつ抜けり

佐瀬 初音

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

敷石の廻りに生ふる雑草を

斎藤つね子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

朝日子のぼる総の丘より

斎藤つね子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

兩側に孫の座りて小龍包

鈴木まさ子

寡母なるわれの仕草のごちなく
新年の雑煮つくりゐるなり

永藤 滋

半日を吾が家で過せし弟は

戸崎 尚美

食みてゐるなり一家五人で

鈴木まさ子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

成田山へ初詣すと人力車に

平山 芳子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

乗る人ありて視線あつむる

平山 芳子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

つぎ次に懐かしき地名ききながら

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

循環バス行く故里の道

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

嬰児を夫は背にして笑みるたり

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

ガラス戸に映る己の姿に

押尾 輝子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

冬枯れの野辺に残れる猫じやらし

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

冬枯れの野辺に残れる猫じやらし

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

枯れ草を焼きる野辺の近からし

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

煙と雲と一体となる

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

暮れてなほ温み残れる庭石に

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

腰かけ仰ぐ寒の夕焼け

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

枯れ草を焼きる野辺の近からし

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

家の灯影に心和みく

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美

暮れてなほ温み残れる庭石に

吉岡 信子

戸締り注意と言ひて帰りぬ

田崎 尚美